

# 平成19年(2007年)度 海外県人会ホームステイ派遣事業報告書



## ATLANTA.



## Hawaii

◎ 沖縄県観光商工部交流推進課  
(受託) 沖縄NGO活動推進協議会



## はじめに

ウチナーンチュは、約 100 年前に始まった海外移民の時代から現在まで、多くの人々が世界各地に雄飛し、活躍しております。沖縄県では、この世界に広がるウチナーンチュのネットワークを有効に活かし、ホームステイを通して、海外と県内のウチナーンチュの若い世代の相互交流を推進する「ホストファミリーバンク推進事業」を実施することになりました。

これは、2006 年 10 月に開催された、「第 4 回世界のウチナーンチュ大会」の際の、海外県人会・民間大使会議において、「ホストファミリーバンク事業」の推進が決議されたことによるものです。その背景としては、海外の沖縄県人会等においては、時とともに母県沖縄を知らない世代が増え、ウチナーネットワークの担い手となる次世代の人材育成が課題となっていることがあります。一方、県内においては、海外移民の歴史や世界のウチナーンチュとの持続的な交流を次世代にきちんと継承していくことへの要望が高まってきたこと等があります。

県として初の試みとなる、今回の海外県人会ホームステイ派遣事業でしたが、準備期間が短かったにもかかわらず、多くの海外県人会から受入の表明があり、また、県内学生・生徒からも定員の約 4 倍の応募者があり、海外、県内とも高い関心を示しました。

今回の受け入れ先については、米国ジョージア州・アトランタ県人会とハワイ州・ハワイ沖縄連合会に決定し、また、ホームステイ参加者については、作文、面接による選考を経て、11 名を選出しました。これら参加者は、移民の歴史や日常英会話、さらに海外にて「沖縄」を伝えるプレゼンテーションの事前研修を受け、ホームステイに臨みました。ホームステイ参加者は、両地において、海外においてもユイマール精神で連帯し、沖縄の伝統、文化を継承しようとする情熱を傾ける県系人と触れあうことができました。10 日間の日程をこなした参加者は、異文化体験を通して沖縄の伝統、文化などの習得への意欲を強くし、また語学力の向上や将来の進路に海外も視野に入れるなど、意識の変化をもたらし、沖縄の若い世代の心を大いに刺激する体験になったようです。

ここに今回の事業を記録し、全体について振り返るとともに、事業の成果を検証し、準備不足であった点については次回実施に向け、改善していくための参考にしていきたいと考えております。

この度、ホームステイを受け入れていただきました、アトランタ沖縄県人会とハワイ沖縄連合会の皆様に改めて感謝申し上げます。また、ホームステイに参加した学生・生徒・保護者及び関係者の皆様におかれましては、国際的な視野を一層広げ、将来のウチナーネットワークを継承・発展させ、国際交流・協力の担い手としてご活躍されることを期待しております。皆様におかれましては、今後とも本県の国際交流・協力施策の推進にご協力下さいますよう、お願い申し上げます。次第であります。

平成 19(2007)年 11 月

沖縄県観光商工部  
交流推進課長 大城眞幸

## 目次

項 目	頁
1. 参加者	1
2. 事業の流れ	2-5
(1)事業経過	2
(2)ホームステイ日程	3-4
(3)事前研修	5
(4)事後研修 (報告会)	5
3. 現地活動日誌	6-9
4. ホームステイを終えて	10-18
5. 実施体制	19
6. アンケート結果	20-24
(1)参加者 (派遣前)	20
(2)参加者 (派遣後)	20-22
(3)ホストファミリーから	22-24
7. 広報報告	25-26
8. 編集後記	27
9. 思い出の一コマ	28-31

## 1. 参加者

No	名前	学校・学年
アトランタ派遣者		
1	比嘉 萌	首里中学校 3年
2	栗国 風花	読谷中学校 2年
3	富東 禎昌	羽地中学校 2年
随 行	宮城 直人	沖縄県観光商工部交流推進課
ハワイ派遣者		
4	奥山 有希	沖縄キリスト教学院大学 4年
5	山城 美紀	琉球大学 3年
6	高倉 環	那覇商業高校 3年
7	上間 ゆうな	北谷高校 2年
8	祖慶 拓真	美来工科高校 1年
9	野崎 惇史	那覇西高校 1年
10	宮城 美沙	座間味中学校 3年
11	宇栄原 こなつ	松城中学校 3年
随 行	大城 みのり	沖縄 NGO 活動推進協議会



アトランタ



ハワイ

## 2. 事業の流れ

### (1) 事業経過

日程	内容	場所・その他
5月	参加者募集開始	
6月25日	応募〆切 42名応募	
6月28・29日	面接	沖縄県庁
6月30～7月1日	選定会議、参加者決定	沖縄県庁
7月3日	参加者決定通知	沖縄県
7月7日	第一回オリエンテーション 保護者説明会	JICA 沖縄国際センター
7月15日	第二回オリエンテーション	JICA 沖縄国際センター
7月25日	米国（アトランタ）へ向け出発 アトランタ到着	那覇空港～成田空港 ～アトランタ
7月30日	米国（ハワイ）へ向け出発 ハワイ到着	那覇空港～成田空港 ～ハワイ
8月2日	日本へ向け出発 8月3日 那覇空港到着	アトランタ～成田空港 ～那覇空港
8月7日	日本へ向け出発 8月8日 那覇空港到着	ハワイ～成田空港～ 那覇空港
9月15日	事後研修・報告会	JICA 沖縄国際センター

(2) ホームステイ日程

【アトランタ】

<p><u>1日目：7/25（水）</u> 那覇空港発 羽田空港⇒成田空港⇒アトランタ（12時間40分フライト） アトランタ県人会出迎え、ジュニアサマーキャンプへ合流 （アトランタ県人会は7/22～28県人会子弟を対象にジュニアサマーキャンプ実施）</p>
<p><u>2日目：7/26（木）</u> 午前 アトランタ県人会子弟のエイサー練習合流 在アトランタ日本総領事館訪問、ショッピング・モール散策</p>
<p><u>3日目：7/27（金）</u> 午前 州立ケネソー大学見学 午後 ストーンマウンテン公園内プランテーション見学、ケーブルカーでストーンマウンテン登頂、レーザーショー見学、テントにて就寝</p>
<p><u>4日目：7/28（土）</u> 午前 アトランタ沖縄県人会子弟と交流会（琉舞、首里城、羽地と空手についてプレゼンテーション）。沖縄の家族宛の手紙を投函 午後 アトランタ県人会メンバーとの交流会</p>
<p><u>5日目：7/29（日）</u> 終日 アルバニー沖縄県人クラブ発足パーティー出席 沖縄についてプレゼンテーション。琉舞、空手を披露</p>
<p><u>6日目：7/30（月）</u> 午前 コカ・コーラ博物館見学 午後 アトランタ水族館見学、オリンピック記念公園、CNN散策</p>
<p><u>7日目：7/31（火）</u> 日中 各ホストファミリーと過ごす （ショッピング、映画、科学博物館、美術館、キング牧師の墓見学等） 夜 タナーフィールドスタジアムにて、アトランタブレーブス対ヒューストンアストロズのMLBナイター観戦</p>
<p><u>8日目：8/1（水）</u> 午前 玉城国子さんのオフィス（カーテン縫製工場）へ集合、見学 午後 タルーラ峡谷公園をハイキング、メーシーズショッピングモール散策 夜 ナカムラ・ヨネコさん宅にて送別会</p>
<p><u>9日目：8/2（木）</u> アトランタ発 成田へ（14時間フライト）</p>
<p><u>10日目：8/3（金）</u> 成田⇒羽田⇒那覇空港 解散式</p>

【ハワイ】

<p><u>1日目：7/30（月）</u> 那覇空港発 羽田空港⇒成田空港⇒ホノルルへ（7時間10分フライト） ホノルル着、ハワイ沖縄連合会職員・ホストファミリーと対面 ハワイ沖縄センターにてオリエンテーション ホストファミリーと各家庭へ</p>
<p><u>2日目：7/31（火）</u> 終日 ホストファミリーと過ごす（親戚とバーベキュー、パールハーバー見学、ショッピングなど）</p>
<p><u>3日目：8/1（水）</u> 午前 ドールプランテーション見学 午後 ポリネシア文化センター見学</p>
<p><u>4日目：8/2（木）</u> 午前 ダイヤモンドヘッド登頂 午後 ワイキキビーチにて海水浴 夜 ハワイ沖縄センターにて三線の練習に参加</p>
<p><u>5日目：8/3（金）</u> 終日 マイクロバスで市内観光（ヌアヌパリ展望台、パンチボール（国立墓地）、イオラニ宮殿、カメハメハ大王像、ハワイ州政庁）</p>
<p><u>6日目：8/4（土）</u> 終日 ホストファミリーとの自由時間 （スワップミート、ショッピングセンターでの買い物、シュノーケリング、映画、観光他）</p>
<p><u>7日目：8/5（日）</u> 終日 玉城村人会ピクニック参加 羽地クラブのレクリエーション合流</p>
<p><u>8日目：8/6（月）</u> 終日 ハワイアンアドベンチャーパークで自由行動 夕方 アロハパーティー（バーベキュー、沖縄紹介、歌、挨拶など）</p>
<p><u>9日目：8/7（火）</u> ホノルル発 成田へ（7時間55分フライト）</p>
<p><u>10日目：8/8（水）</u> 成田⇒羽田⇒那覇空港 解散式</p>



### (3) 事前研修

派遣までの日程確認、参加者同士の連帯感を深める、参加者の意識を高めること等を目的に、以下の研修を行った。

#### ◇第一回 オリエンテーション

日 時：2007年7月7日（土） 10:00～17:00

場 所：沖縄国際センター ニライホール

内 容：保護者説明会、旅行社からの説明、質疑応答、語学研修、派遣地情報、沖縄移民の学び、事前学習（テーマを見つける）、次回までの準備事項確認

講 師：ルイス高江洲佳代子（アトランタ県人会）・・・派遣地情報

玉城美奈（ハワイ県費留学生）・・・派遣地情報、語学訓練

配布資料：研修資料（保護者用、参加者用）

【事業概要、ホームステイ日程、ホームステイ心構え、沖縄移民について、派遣地情報、英会話集、参加者一覧、現地連絡体制、事前学習調ノート（伝えたい沖縄のこと、現地について調べたこと）他】

#### ◇第二回 オリエンテーション

日 時：2007年7月15日（日） 14:00～17:00

場 所：沖縄国際センター ニライホール

内 容：語学研修、発表準備、役割分担、出発までの日程確認他

講 師：宮平リン（沖縄県教育庁県立学校教育課）・・・語学研修、ホームステイ情報

配布資料：活動のしおり

【緊急連絡網、日程表、活動日誌、歌集、地図など】

### (4) 事後研修（帰国報告会）

帰国後、事前研修からホームステイ派遣中までのことを振り返り、参加者より体験報告をしてもらった。

日 時：2007年9月15日（日） 14:00～17:00

場 所：沖縄国際センター

参加者：ホームステイ参加者、参加者家族、事業関係者

### 3. 現地活動日誌

(参加者記録より抜粋)

#### 【アトランタ】

##### 7月25日(水)晴れ

(初めての海外。アメリカ入国時の空港にて)入国審査は怖かったけど、日本人の審査官が助けてくれた。アトランタ国際空港はとても広い。空港内を電車で移動する。

アトランタに着いて最初の夕食はレストランでパフェだったけど、県人会の皆さんみんなが、たくさん食べることに驚いた。県人会の方たちは、英語、日本語、方言を混ぜて話していた。

##### 7月26日(木)晴れ

エイサーの練習会場で、アトランタの子がミルクムナリを踊っていて、みんな上手だったのでスゴいと思った。ジーンという子と友達になった。

ショッピング・モールがBIG! 無人レジのウォルマートがあった。

領事館では緊張でガチガチだった。

食事について...南部料理のレストランでは、南部の食べ物が出たが、甘くて食べきれなかった。レストランでアメリカ人の女性に「Where are you from?」と聞かれて、「沖縄から来たよ」と伝えた。夕食はフードコートでチキンと野菜を食べたけど、甘過ぎ...。和食食べたーい(泣)。スターバックスのドリンクが日本のものより、とてもおいしかった。

##### 7月27日(金)晴れ

近くの大学キャンパスを案内してもらった。結構広くて雰囲気があったから、すごく良かった。

ホワイトさんの家に寄って昼ご飯を食べましたが、奥さんのセツコさんが「あれ食べてこれ食べて」して、もー大変。

ストーンマウンテンの上は風景がきれいだった。

レーザーショーは、戦争の英雄とか“愛国”ってのが結構強くて驚いた。

明日は朝早くからハイキングなので早く寝たいけど、夜遅くまで寝ないアメリカの子もってすごいなあと思った。(二世たちが12時からキャンプファイヤーをしていた)。

##### 7月28日(土)小雨

県人会の歓迎パーティーでは、みんなとてもアットホームで、沖縄のことをたくさん聞きたがり、カメラ攻撃がすごいのは「さすがウチナー」という感じだった。

午後のピクニックで県人会の人がたくさんいて、みんなやさしくしてくれてうれしかった。県人会の人と“かぎやで風”を踊った。プレゼンテーションで空手の型をやる時緊張した。

すいか割りの時、たたく棒が折れてしまった。アメリカのスイカの種は白い。

##### 7月29日(日)晴れ時々雨

アルバニー県人会を訪れました。車で3時間半かかって大変でキツかった。

アルバニー県人会のパーティで“沖縄そば”があって感動でした。アメリカのゴーヤーはとてもおいしかった。

ホストファミリーの家はとっても広いし、犬のジンジャーはお利口さんでびっくりした。Mikaと一緒にピアノの連弾を夜遅くまでした。沖縄から楽譜を持ってきてという恵子さんの伝言を宮城さんが忘れていたため、デュオができなかった。

##### 7月30日(月)晴れ時々曇り

ワールドオブ・コカ・コーラでは、4Dショーや日本にはない味を楽しむのが楽しかった。

夕食は夜景がきれいなタワーでステーキを食べた。デザートもちよーおいしくて感動した。もうこんな所はめったに行

けないので、味わって食べた。

#### 7月31日(火)晴れ

アトランタの博物館、美術館に行った。昔のフランスの王様は何でもかんでも金が好きみたいだった。

映画を見たが、英語だったので少しわからない所もあったけど、なんとなく分かった。

ターナーフィールドスタジアムにナイター観戦に行った。はじめはそんなに興味は無かったけど、会場の雰囲気ですごく圧倒されて、とても楽しめた。

#### 8月1日(水)晴れ

Mikaとのピアノの連弾をビデオで撮った。

タルーラの山に景色を見に行っただ。滝はすごくきれいだった。そこは30年前に谷間に綱を張って綱渡りをした人がいる。階段が多くて、ホストファミリーの恵子さんと真紀子さんは途中でダウンでした。

ヨネコさんの家でお別れパーティーがありました。ひとりずつスピーチして、もう帰るのかと実感して悲しくなった。今日は悲しい夜だったなーと思った。

初めてのカラオケは意外とおもしろかった。

夕ご飯で食べたソーキ汁が・・・!!!おいしくって涙が出そうで感激した!!!つくづく自分はやっぱりウチナンチュだ！って思って嬉しくなった。

#### 8月2日(木)晴れ

空港まで、ヨネコさんやシズコさんが見送りに来てくれました。今日でお別れだと思えば涙が出てきそうでした。ホームステイをしてアトランタが大好きになった。また、いつかアトランタに行った時に県人会の皆さんとお会いできたらうれしいです。空港の中まで、ルイスさんがついてくれ、送ってくれました。

14時間フライトやだー(泣)。すっごくラーメンが食べたい気分です。

### 【ハワイ】

#### 7月30日(月)晴れ

(午前8時半、オアフ空港到着)ハワイの日差しは強いが、気候は沖縄と違いじめじめしてなくて涼しく感じる。空港でのホストファミリーやハワイ沖縄連合会の出迎えと蘭のレイがとても嬉しかった。ハワイ沖縄センター敷地内を案内してもらった。ハワイの沖縄の人たちの暖かい心があってこそ築き上げられたことを実感した。

#### 7月31日(火)晴れ時々小雨 (ホストファミリーと過ごす一日)

テレビをつけると、日本のアニメが放送されている。テレビコマーシャルには日本語のみで流れるものもあり、日本人観光客が多いことが伺える。

ホストファミリーが調べてくれて、ハワイには自分の親戚がいっぱいいることが分かった。そして実際お会いすることができた。たくさんお話ししたり、ハグされたり、ほっぺに「チュ」は驚いた。

ビーチに連れて行ってもらった。ハワイの海は年中泳げると聞いたけど、海水が冷たくてなかなか入ることができなかった。

#### 8月1日(水)晴れ

ドールプランテーションとポリネシア文化センターを訪れた。ハワイのバナナは1年半で収穫できる。バナナとサトウキビ畑は人件費がかかるため、今ではほとんどなくなっている。日本人の観光客は少なかった。

ポリネシア文化センターでは現地の大学生が多く働いている。そこで働くことで授業料の免除や負担の軽減ができる。ポリネシア文化圏は、同じような服装(民族衣装)でも、地域によって踊り方や雰囲気は全然違っていた。

商品を買う際値札を見て代金を準備しても、レジで税が足され、あせってしまいで紙幣だけ出してしまって財布には硬貨が増えるばかりでつらい。

#### 8月2日(木) 晴れ時々小雨

自分の限界にチャレンジしてダイヤモンドヘッドに登り、頂上で新たなハワイを発見できて嬉しかった。約40分かけて登った頂上は絶景だった。観光客がとても多く、登頂する人々の年齢層も広がった。

ワイキキビーチは波が高く、サーフィンが有名なのがよく分かった。ビーチ周辺には高層ビルがたくさんあった。

夕方、県人会の三線教室に参加させてもらった。初めての三線の練習で、とてこずった。教える側を困らせるほどで苦痛だったけど、色々な人がアドバイスしてくれて、少しは自信がついた。(音はいまひとつでした！)

三線や舞踊をできるよう、もっと沖縄の人も伝統にふれるべきだと思った。

#### 8月3日(金) 晴れ、スコール

パンチボウル(国立太平洋記念墓地)には沖縄戦の当時の地図が壁面に飾られていた。

コオラウ山脈に向かう途中ハワイアンが住む居住地がある。そこは年間1ドルで住めるそうだ。ただし、50%以上ハワイアンの血が入っている人に限られ、しかも抽選で決められる。後で聞いた話では、生活に必要なインフラ設備が整ってはいないとの事。

カメハメハ大王は、自分の姿を銅像にしたのではなく、島一番のハンサムな人をモデルに銅像をつくった。初めてオアフ島を訪れる人の第一印象をよくするために考えられたアイデアだという。

山の山中にある展望台、ヌアヌバリはすごく風が強く、スコールに見舞われた。びしょ濡れになったが、運転手さんのアドバイス通り風に吹かれたまましていると、ものの数分で服が乾いた。

#### 8月4日(土) 晴れ(ホストファミリーと過ごす日)

毎週水、土、日曜日に行われるスワップミート(フリーマーケット)ではハワイの人々の生活を見ることができた。

夜のワイキキビーチは沖縄の国際通りみたい。にぎやかで人がいっぱいいて、色んなパフォーマンスをする人がいる。野生の海ガメを見ることができ、とても感動しました！

ハワイのパラダイスのイメージはWaikiki(ワイキキ)だけで、西のほうは別世界。Hawaiiも観光業が主要産業になっているが、外国からの人が多くて地元の人のためにはなっていないようだ。

歴史を知ること未来を知ることができる。方言や伝統文化を残すことがこれからは大事で、ハワイの人は言葉の大切さに気付いてきているが、沖縄の人はまだまだだと思った。沖縄の自然や文化の失われていく様子が、ハワイの30年前と似ているようだ。ハワイには緑がいっぱいあるが、実は昔からの在来種ではないため、生態系は変わってきている。一見すると分からないが、どこの地域にも問題はあんだなあ。

#### 8月5日(日) 晴れ

カピオラニパークは大きな広場で、たくさんの人々が談笑したり、スポーツに興じていた。ラクロスというスポーツを初めて見た。ラグビーも生で初めてみたので興奮した！

玉城、羽地クラブの両ピクニックは小さい子どもからお年よりまで参加し楽しめるようプログラムが組まれていた。始まりのあいさつや司会もすべて英語ですすめられていた。競技に参加すると学用品、お菓子、たわしやハブラシ、キッチンペーパーなどの商品がもらえた。持ち寄りで色々な家庭の手料理が食べられて嬉しかった。ハワイ、沖縄料理はもちろん、両方が組み合わさったようなユニークな食べ物もあった。あぶらあげの中にスパゲッティーみたいなものが入った食べ物はおいしかった。小さい子たちはひまわりやかぼちゃの種のお菓子を食べていた。

羽地クラブは、わざわざ私たちのためにバレーボールのネットを張っていた。ダイヤモンドヘッドを背景に広い芝生の上でバレーボールをするのはとても気持ちがよかった。

8月6日(月)晴れ

日本人観光客がとても多かった。パークはとても広く、乗り物はどれもエキサイティング！

アロハパーティーではみんなでプレゼンテーションをし、歌を歌って、美沙さんが ALOHAOE を踊ったりして楽しくすごした。でも、最後には「これが終わったら日本に帰るんだ。」って思うと悲しくなり大泣きしてしまった。ハワイ沖縄県人会の人々の温かいおもてなしをうけ、とても感動しました。

沖縄のことを色々伝えた。最終日でとても寂しかった。英語はあまりできなかったけれど、交流を持ててよい体験になった。英語をもっと勉強したいと改めて思いました。

8月7日(火) 晴れ、時々小雨

自分のふるさとよりもハワイが好き！と思うくらい、ハワイやホストファミリーを身近に感じるようになっていた。

泣かない！って決めていたけど、1週間お世話になったホストファミリーと離れるのが悲しかった。ゲートをくぐると涙が出てきた。長いようであっという間だった。

#### 4. ホームステイを終えて

○比嘉 萌【首里中学校 3年】

「ホームステイを終えての感想」

世界のウチナーンチュネットワークに今後どう関わっていけるか。今特別に何かする、ということにはできないけれど、将来アメリカの大学に行ってそこで住むとなったらやっぱり県人会に入るとし、今回のホームステイを通してお世話になったアトランタ県人会の方々にお返しが出来たらと思う。又、世界のウチナーンチュ大会など、県内での県人会の行事などにも何ができるかはわからないけど、できたらお手伝いをしてみたい。



「沖縄」を海外でどう伝えられたか、正直に言うとアトランタで「沖縄」を伝えられたかどうかは自信がない。私以外の2人は空手や琉舞をどこでも披露していたけれど、私は沖縄を身をもって伝えられず、首里出身の人に方言で話しかけられてもさっぱり分からずものすごくショックだった。最後の日の夜、県人会の方が作ってくださったソーキ汁を飲んだとき、沖縄に帰って来てゴーヤーを食べた時、すぐに「沖縄だ!」と思ったし、やっぱり自分はウチナーンチュなんだな・・・と再確認できた。

また、県人会の方々はとても明るく、やさしく、カメカメ攻撃の激しいところもさすがウチナーンチュだ!と思った。

海外のウチナーンチュやその住んでいる地域、生活から学んだこととしては、県人会の方と初めて空港で会ったとき、お互い方言と英語を混ぜてしゃべっているのがとても印象的で、海外の知らない国でここまで暮らせるようになるのは楽じゃなかつたらろうなと思った。女性の方がほとんどだったけれど、みんなとてもたくましくてそしてとても明るく、「こんな人になれたらな・・・」と思った。県人会の方のだんなさんたちもすごくよくしてくれて、肌の色や話す言葉が違っても理解し合えるというのはとてもステキだなと思った。最近よく国際理解や国際化という言葉聞くけれど、本当の国際化は外国のマネをすることじゃなく、自分の地域をよく知った上で互いの違いを理解する事じゃないかということ学べた。

今回のホームステイで初めて海外の県人会の方々と交流したが、アトランタ県人会の他にもアルバニー県人会などどこに行っても「沖縄から来た」というものすごく喜ばれ、「体調はどうねえ?何か食べる?ひもじくない?」と細かく気配りをしてもらい、とても嬉しくまるで皆親戚のようで本当に「イチャリバチョーデー」だなと実感した。

ホストマザーの恵子さんは同じ首里中出身ということもあって、アメリカの中学校について教えてもらいながら、私も沖縄の中学校の様子を伝えた。アメリカには校則というものはほとんどなく、あったとしても「麻薬や銃を持ち込まない」という怖いものばかりで、髪ゴムの色が制限されている日本の中学校とは世界が違うな・・・と思ったし、それも1つの文化の違いなんだと思った。またアメリカには飛び級とは少し違う「アドバンスクラス」という成績の良い学習意欲のある生徒はほとんど先の授業を受けられる制度もあり、サマープログラムに参加していたほかのアトランタの生徒もアドバンスクラスの生徒が多いと聞いて、沖縄の中学校に比べたらみんなとても「学びたい!」という気持ちが強いことに驚いた。日本とアメリカ、両方の教育制度の違いやメリット、デメリットがわかり、将来の仕事に活かしたいと思った。

私は今回のホームステイを通して沖縄の踊りも踊れず、方言も話せない自分に気づかされたのと同時に、沖縄のことを身を持って伝えられなかったけれど、私がウチナーンチュであることに変わりはないから、今からでも沖縄の事を学び直そうと思った。将来アメリカに行っても自分の故郷に誇りを持って伝えられる、そんなウチナーンチュになりたいと思う。

---

### ○粟国風花【読谷中学校 2年】

「海外県人会ホームステイ派遣員として」

沖縄県人会ホームステイ派遣員として7月25日から8月3日までの10日間アメリカ合衆国ジョージア州アトランタへ行ってきました。アトランタでは県人会のみなさんがあたたかく迎えてくれました。

「沖縄」を伝えるために琉舞のプレゼンテーションをしました。私は3歳から琉舞を習っています。発表の資料を作るために、琉舞の歴史や踊りの型について本をいくつか見ました。発表は英語でしましたが、うまく伝わったか不安が残りました。アトランタの学生が日本語でアメリカの事を説明してくれました。日本語が上手でした。

アメリカで生活していて、いくつか学んだことがあります。まず一つ目に、自分の語学レベルです。相手が一生懸命話しをしてくれているのに、全然意味が分からなかったり、自分の気持ちを伝えようとしても話すのにも苦労しました。「言葉は離せなくても心は通じるさー。」と思っていましたが、言葉をはせるほうが絶対いいです。

二つ目に、県会の方々についてです。日本語はもちろん、英語もできます。とても頼りになる方々ばかりでした。沖縄の文化や習慣をアトランタの子ども達に伝えようと、エイサーや三線を教えたり、習字を教えたりと頑張っていました。沖縄が好きなんだなーと思いました。

私は「世界のウチナーネットワーク」に、今後関わっていけたらいいなーと思っています。今回の私たちとは逆に、海外にいる子ども達が、沖縄にホームステイを希望するなら、ホームステイを受け入れたり、交流会などに参加してみたいなーと思っています。私がアメリカに行って、あたたかく迎えられたように、温かく迎えてあげたいと思います。

ホームステイに参加した事を、自分の将来の夢に活かしていきたいです。私は世界で活躍するウチナーンチュになりたいです。(夢は青年海外協力隊です)。今まで適当にやっていた琉舞も真剣に取り組みたいし、英語もたくさん勉強していきたいです。

今回、こういう機会を作ってくれた沖縄県交流推進課の皆様に感謝します。ありがとうございました。

---

### ○富東禎昌【羽地中学校 2年】

「ホームステイを終えて」

僕は、アトランタでのホームステイを終えて、世界のウチナーネットワークに今後どう関わっていけるかを考えたとき、特にやっていきたいと思うことが2つあります。それは、交流した時に出会ったジーン君のような友達との「絆」を深めていきたいという事です。それともう一つは、世界のウチナーンチュ大会などで来る県会の人達に



何か手伝えることを少しでもやっていきたいという事です。

アトランタで特に「沖縄」について伝えたことはありませんでした。理由としては、県人会の人達はほぼ一世だったからです。しかし、ピクニックで真喜屋の事について発表し終わった後、石川市出身のジョニー・嘉陽・バウムガードナーさんが僕に、「発表はすごかったよ。内容の中の津波で、昔被害にあったよ。」と言われながらも、二十分くらい津波の事で話をしました。その時初めて僕は県会の人々に教わって本当にうれしかったです。

ホームステイを通して、地域や生活の中からもいろいろな事を知りました。

まず、普通の家では日本と違って、一つのクーラーに一つのリモコンではなく、全てのクーラーに一つずつリモコンがあることを知りました。

その他にも、食事は家族みんな一緒に食べる、車は横に長くなっている。ほとんどのチョコレートにプロテインが入っていることなども知りました。このような文化の違いを知ることができて貴重な体験をする事ができました。

今回の経験を通して、県人会の人達との「絆」を生かして、将来につなげて生きていきたいと思えます。その他にも、人との英会話体験を通して、今後の英語の授業や試験にも活かせるらいいと思えます。

生れてはじめてのホームステイ、また他の学校から来た2人と一緒に宮城さんとアトランタに行って、とても面白かったです。そして、県人会の人達に暖かく歓迎されてとても嬉しかったです。この大変貴重な思い出を将来に活かしてがんばっていきたくです。

---

### ○奥山有希【キリスト教学院大学 4年】

「ホームステイを終えての感想」

世界のウチナンチュネットワークに今後どう関わっていけるかについては、世界のウチナンチュ大会でボランティアとして参加したり、ホームステイプログラムなどが始まればそのホストをするなど。まわりの知り合いや友人などに話をするだけでも、十分ネットワークは広げられると思えます。

「沖縄」を海外でどう伝えられたか。沖縄に帰ってきて改めて感じた「沖縄」とは、ハワイと沖縄はとても似ていて共通点はたくさんあるが、同じ観光地として見た場合ハワイと沖縄の観光業のやり方には大きな違いがある。沖縄の観光業は人を第一に考えるもので、人が楽しめる観光業が中心だと思った。それに比べてハワイは自然を大事にしながらその中で人の楽しみを作り出している。沖縄は日本の中では観光が盛んだが、もっと沖縄らしさを大切にすることが大事だと思った。ウチナンチュと出会い、話をすることで、自分自身に誇りを持つということを学びました。沖縄から出て、ハワイに移住し、自分たちの力で生活を支え、沖縄に住む者たちへの手助けをしてきたウチナンチュはほんとに強く、広い心を持っていると思う。彼らと接することで、そういう気持ちというか、オーラが伝わってきた。沖縄人としての誇りを持っているからこそ、海外でも沖縄人として伝統や文化を大切にすることができるんだと思う。

そして、自然を大切にするという考えがすごく深く根付いていると思った。観光地としてにぎわっているが、ビーチにはゴミひとつ落ちていない。日本とは全く違うというのを感じた。





海外に出ていつも感じることは、改めて自分と向き合えることと、沖縄という場所を自分の中でどう位置づけるかということです。今回も沖縄らしい伝統文化をもっと学ぶ必要があると思っ  
たし、自然をもっと身近に感じ、大切にしていかななくてはいけないと思った。伝統文化を知ると  
いう意味で、10月から三線を習い始めます。沖縄の良さをもっと学び、それを広げていけたら  
いいなと思います。

---

### ○山城 美紀【琉球大学 3年】

「ホームステイを終えて・・・」

私にとって、このハワイ研修は自分と向き合うよいきっかけになりました。海外に行くことは2回目ですが、前回のオーストラリアでホームステイをした時より、ホストファミリーと接する時間は多く、お互いの両親、祖父母、ハワイの食文化、沖縄の観光地や伝統芸能、旅行話、人生観についてなどあらゆることについてお話をすることができました。一緒に生活し、感じたことは、このハワイには沖縄が根付いているということです。

ドン・キホーテというスーパーに買い物に行ったとき、「オキナワン フェア」の開催や「ANDAGI」と書かれた看板を出し、サーターアンダギーを売っている場面を目の前にし、驚きと同時に沖縄食が浸透していることに嬉しく思いました。

また、ハワイで沖縄を広めようと活動している海外ウチナーンチュの人と会う機会があり、辺野古基地反対の映写会や、沖縄の伝統文化推進活動をしており、話を聞く事ができました。その方たちの沖縄の自然や文化を守らなければいけないという熱い気持ちがとても感じられ、このハワイにはウチナー魂が根強く生きていることを実感しました。

しかし、沖縄に戻り、気付いたことは、沖縄に住むウチナーンチュがあまり沖縄について知らなかったり、身近にありすぎて価値を理解していない人がとても多いということです。それは実際私自身にも言えることであり、沖縄の自然、歴史、文化について再認識する必要があると感じました。沖縄のことをたくさん知り、世界のウチナーンチュと連携をとり、沖縄を内側の部分と外側から見つめなおし、沖縄のブランドを形成していきたい。そして、世界に沖縄を広めていきたいと思いました。沖縄はハワイに負けず劣らずの独自の自然や文化、歴史をもっています。新しいものを造るのではなく、今あるものをどう活かすかが大事だと感じました。

この研修を通し、海外ウチナーンチュの力、沖縄を愛する心を十分に感じる事ができました。一度、世界に出てみると新しい発見や自国への再認識につながります。またこの経験からたくさん学び得たものがこれからの私にとって大きな糧や財産となるでしょう。

私は、これからより国際理解を広めるために、留学生の人たちや海外ウチナーンチュの人たちと触れ合いたいと思っています。ウチナーンチュ大会などの沖縄県人会主催のイベントや留学生交流に積極的に参加していきたいと思っています。

この機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

---



### ○高倉 環【那覇商業高 3年】

「ホームステイを終えての感想」

今回のホームステイを通して、世界のウチナーネットに文化を共有しあい、色んな国のウチナーンチュの友達を作っていく事で関わることができるのではないかなと私は考えました。

人と人との出会いは、国際交流を深めるのにも繋がります。自分が知っている母国の知識を高める必要があるなど改めて思いました。

ハワイでは、自分の地域の話や家族の話、学校の事など私自身の事、またグループ発表では「沖縄の自然・環境」について伝える事ができました。英語が完璧ではなかったため、ぎこちなかったかもしれませんが、自分なりに一生懸命発表しました。

逆にハワイの人々から得た事は、食文化や歴史、自然についてなどです。

ハワイの伝統的な主食・・・「ポーチ」・・・私には受け付けられない独特な味でした。しかし、この料理には昔のハワイの人々の知恵を感じました。タロイモを粉末にして練ることで、満腹感も得られるし、量も増えるし、良い食べ物だなあと感じました。

最終日はアロハパーティーがあり、ホストファミリーのやさしさに涙が出てしまいました。人の温かさを改めて感じました。

寂しいお別れを終え、飛行機での長い移動の末、やっと沖縄に着いたとき、最初に感じたのは蒸し暑い・・・という事でした。私にはハワイの気候がお似合いみたいです。しかし、食事は沖縄の料理が合っています。

私が今回経験を通して考えたことは、将来秘書になりたいのですが、仕事をするときにこの経験を活かしてみたいという事です。ハワイだけではなく、他の国とも交流してみたいと思いました。人と人との輪は国境を越える・・・それが私が今回学んだことのひとつでもあります。貴重な体験をさせてくれた沖縄県人会、ハワイ沖縄センター、ホストファミリーの方々、本当にありがとうございました。

-----

### ○野崎 惇史【那覇西高校 1年】

「海外研修で得たもの」

今回私は、海外県人会ホームステイ派遣事業のハワイ研修班として参加しました。一日一日が本当に充実した日々を送ることができ、この体験は一生思い出に残るものだったと思います。

ハワイというのは、一般的に見ても、世界屈指のリゾート地、休暇を楽しむところだというイメージがあると思われます。しかし、私たちハワイ研修班が得たものはお金を出して家族旅行のように楽しい思い出を作るものでもなければ、休暇をエンジョイするわけでもありませんでした。楽しかったね、の一言で終わるのではなく、一人ひとりがこれからこの経験をどう活かすのか、しっかり自覚をもてたと思います。

私は、将来ホテルマンになりたいと考えており、この経験を通してより一層その気持ちが強くなりました。



ホテルに滞在するわけではなく、ホームステイを通して現地の人たちと共に生活することで、異文化と触れ合い、そして生きた英語の中にいることが本当の国際人が生まれるのではないかなと感じました。ホテルマンになるために必要不可欠な英会話を身につけるためには、学校の机で勉強だけするのではなく、実際に異国に住んだり、外国人と触れ合うことが一番だと心からそう感じたことが私のこの研修で得た最大の収穫だと思います。

もはや世界の共通語とも言える英語。それを身につけ、そしてまた様々な人種、異文化、習慣の相違、そういうのをすべて受け入れることが私の目指す国際人だと思います。

この経験を糧に、私は今、真の国際人を目指すべく、交換留学という大きな目標を持ちました。自分と同じ年の外国の高校生、彼らと日本の高校生とはどういった見解の違いを持っているのか、そして自分の高校生活を彼らと一緒に過ごしたい、そういった考えが真剣に芽生えてきたからでした。

もうひとつ、私にとって大きな収穫があります。それは、同じ沖縄を代表して共に行ったハワイメンバーです。彼らは本当に一人一人がしっかりしていて、研修中何度も自分はまだまだ国際理解の姿勢が整っていないな、と思いました。みんなそれぞれ考え方や将来の夢は違っても、世界に意識が向いているという共通点があるから、自分と同じ考えの人たちと出会えたことが本当に嬉しかったです。

そして何よりも、自分の思想を理解してくれて協力的になってくれる私の両親にありがとうと心から伝えたいと思います。

-----

## ○祖慶拓真【未来工科高校 1年】

「平成19年度 海外県人会ホームステイ派遣事業を終えて」

この海外県人会ホームステイ派遣事業を終えて、世界のウチナーネットワークに今後どう関わっていけるかと考えるようになりました。海外に移り住んでも沖縄の事を誇りに思う世界のウチナーンチュの方々に出会い、直に沖縄に住みながらもなんとなくしか知らない沖縄、だけど世界のウチ



ナーンチュはそんな自分とは違い、今の沖縄、昔の沖縄をはるかに知っている。だからこそこの体験を活かした上で沖縄から沖縄をみるのではなく、世界から沖縄を見るとい言う違った角度から視野を広げ、「世界から見る沖縄」として世界のウチナーネットワークに関わっていける気がした。そして、いつまでも沖縄を愛する心としても。

次に「沖縄」を海外でどう伝えられたかは、誇りある歴史の深い沖縄を伝えることは、上手くはいかなかったが、自分が知っている限りの沖縄を伝えられた。また、帰ってきて改めて感じたのは、独特で柔らかい口調、淡い風に、ウージ畑、何気なく過ぎていく時間、日頃から慣れ親しんだ土地だからこそかもしれないが、これが「沖縄」と思った。

さらに、海外のウチナーンチュやハワイでの生活から学んだことは誰に対しても思いやりのある心、笑顔溢れる顔、コミュニケーションがとりやすい雰囲気など沖縄とはまた違う温かみがあり、改めて人と人とのかけがえのない深いことを身にしみて感じた。

そして今回の経験を通して語学をはじめ、人と人との絆、ハワイから見た沖縄を得ることができ、そして皆同じ人間なのに何が違うのかとも考えさせられた。それらをもとに、今の自分に

足りない所を補い、将来の自分への栄養として活かしていきたい。1週間の短い期間でしたが、もっとハワイに馴染み、ハワイのことを掘り起こしたかった。だけど、この短期間でもハワイは米国と同じ国だけど、ハワイ固有の伝統ある歴史・文化があって沖縄と似ているが、また違う異国である事を身をもって実感でき、良い体験になりました。またこのすばらしい計画をなさって下さった県庁の方々をはじめ、ONCの方々、そして我が子の様に受け入れてくださったホストファミリーのデービットさん、ハワイ沖縄連合会の方々に出会うことができ幸せでした。本当にありがとうございます。感謝の気持ちで胸がいっぱいです。

-----

### ○上間 ゆうな【北谷高校 2年】

十日間という短い期間で私は色々なことを学びました。海外のウチナンチュは実際に沖縄に住んでいる私たちよりも、沖縄の事を大事に思っていてビックリしました。今回、沖縄についてあんまり伝えられなかったのが残念です。もっと沖縄の事をよく知って、また海外に行くときに、伝えられたらいいなと思いました。沖縄の人たちは、沖縄の伝統をもっと大事にしたほうがいいと思います。私も琉舞やエイサーなど、素晴らしい伝統にチャレンジしようと思いました。



ハワイの気候ものんびりとした環境も自分にあっていてとても過ごしやすかったし、美しい自然と優しい人たちが毎日が感動する事ばかりでした。ハワイといえば、夏で太陽サンサンというイメージがありましたが、毎日とっていいほど雨でした。でも、雨が止むと虹がでてとってもきれいでした。道にはゴールデンシャワーなど花が植えられていて、海にはたくさんの海ガメもいて、自然が大好きな私にとって最高の環境でした。家庭もとっても温かくて、夕食の後家族の時間があって、今日の出来事を喋ったり、一緒にテレビを見たりしました。その他にも、一緒に料理をしたり、買い物へ行ったりして楽しい時間を過ごしました。

私はこのホームステイで一番に学んだ事は感謝の気持ちでした。私のホームステイの家族はとっても優しく、私にとって第二の家族です。歳の近いケイシーは、初めて会って緊張で黙っていた私にガーリックパンを焼いてくれて、その日から英語を教えてもらったり、お揃いのものをつけたりして最後の日にはふざけあうほど仲良くなって、まるで本当の妹のようでした。グランマも一緒にケーキを作ったり、いつも私のことを心配してくれて、日焼けした私の肌にアロエを探して塗ってくれました。オキナワに着いてからも手紙などもくれました。また会えたらいいなと思います。

このホームステイに参加して私は、もっと色々な外国の食事や環境について知りたいと思いました。学校生活や地域の活動にも参加したいと思いました。いろんな国の景色も見たいと思いました。これから外国語を勉強して、外国に関係する仕事につき、世界を周りたと思います。写真がすきなので、世界の美しい景色を写したいです。

-----

## ○宮城 美沙【座間味中学 1年】

ホームステイ、初めてのホームステイ。初めての仲間。

何もかもが初めてでしたが、大好きなハワイ、行きたかったハワイに行けることがとても嬉しく、はじめから、不安や戸惑いは、いっさいありませんでした。

ハワイに着き、ホストファミリーの方々与会った時は、感動でした。本物の花で作ったレイをかけてくれ、「ALOHA!」と言われたときは、ハワイに来たんだ。という実感がわきました。



私のホストファミリーの方は、初子さんと言って、とても優しい方で、笑顔が素敵な方でした。初子さんやハワイ沖縄センターの方々のおかげで、ハワイでは毎日楽しく過ごすことができました。

ハワイではハワイの歴史や文化などを学びました。市内観光の時には、ハワイをたくさん知ることができ、とても良かったです。沖縄と似ているところもあったり、全く違うところもあったりと、見ていてとても面白く、ハワイにますます興味を持ちました。

例えば、ハワイも沖縄も亜熱帯地域で一年中暑いですが、沖縄の夏の暑さはじめじめしていますが、ハワイの場合は風がすごく気持ち良くて、暑さも爽やかでした。私は、このことが1番印象的でした。

そして、初子さんにフラレッスンに連れて行ってもらい、本場のフラを習ったことは、私にとって、とても刺激的でした。一番の目的が、フラをやることだったので、実際にできて、とても良かったです。また、フラショーも見ました。本場のフラダンサーを見て、フラショーを見て、フラをこれからも続けたい、そして、もっともっと上手になりたい。と思いました。本場のフラを見て、将来の夢のひとつである「フラダンサーになること」を、叶えたいと思い、そして、フラに対する関心が高くなりました。

私は、ハワイに出発する前、英語が多少わからなくても大丈夫だろう。とっていました。しかし、実際に現地に行き、英語を使う場面に出くわした時は、ほとんど英語が喋れず、単語、単語を言って伝える。というような形になってしまいました。また、現地の方が英語で話しかけているのにもかかわらず、日本語でしか答えられなかったり、説明している時やあいさつをしている時が英語だと、全然分かりませんでした。

その時私は、英語を勉強しておいた方が良かったと後悔しました。そして、英語が分かっていたらもっと楽しめたと思いました。だから、高校では、英語を中心に勉強しようと思います。

そして、現地の方とは、自分の住んでいる島を紹介したり、ハワイと沖縄の共通点を教えたり、話していると会話がとまらなくて、とても楽しかったです。

最後の日のアロハパーティーで披露した沖縄の紹介では、沖縄について知ってもらえたのではないかなと思います。ハワイでの生活はとても楽しく、どれもが大切な思い出です。ハワイの人は皆温かく、笑顔がすてきな方ばかりで、お別れの時は、本当に寂しく、辛かったです。10日間は、私にとって、とても短い期間でした。毎日が楽しかったので、時間が経つのが早く感じられました。

沖縄に帰ってくる日は、疲れていて、飛行機では寝ていました。沖縄に着くと、だんだんと、沖縄だ!という実感がわいてきました。右ハンドルの車、標識が日本語、沖縄のじめじめした暑

さ。ハワイとは、やっぱり似ていても、違うなあ。と感じました。

今回のハワイホームステイでは、自分の将来について考えさせられ、また、現地の人との交流をすることで、ハワイにもう一人の家族ができた感じがしました。

今回参加し、再びハワイに行き、もっとハワイを知っていきたいと思いました。また、ホストファミリーの方や、ハワイ沖縄センターの関係者の方にも、会いたいです。そして、この企画を来年、再来年と、続けて行ってほしいです。

なぜなら、自分の国だけではなく、他の国を見ることで得られることがあると思うからです。また、とても楽しかったし、私自身がまた参加したいと思ったからです。

このような企画を考えて下さった皆さんを始め、支えて下さった皆さん、そして両親に、感謝します。本当にありがとうございました。

---

### ○宇榮原 こなつ【松城中学 1年】

世界のウチナーネットワークはすごいと私は思いました。ハワイでは、玉城クラブ、羽地クラブとの交流を兼ねたピクニックに参加しました。玉城クラブ、羽地クラブのピクニックにはたくさんのウチナーンチュがいました。初対面である私たちも一緒にゲームに参加させてもらい、楽しい時間を過ごしました。ピクニックに参加していたクラブの人たちはみんなで料理を持ち寄り、仲良くしていて、「なんか和気あいあいとしていていいな」と思いました。



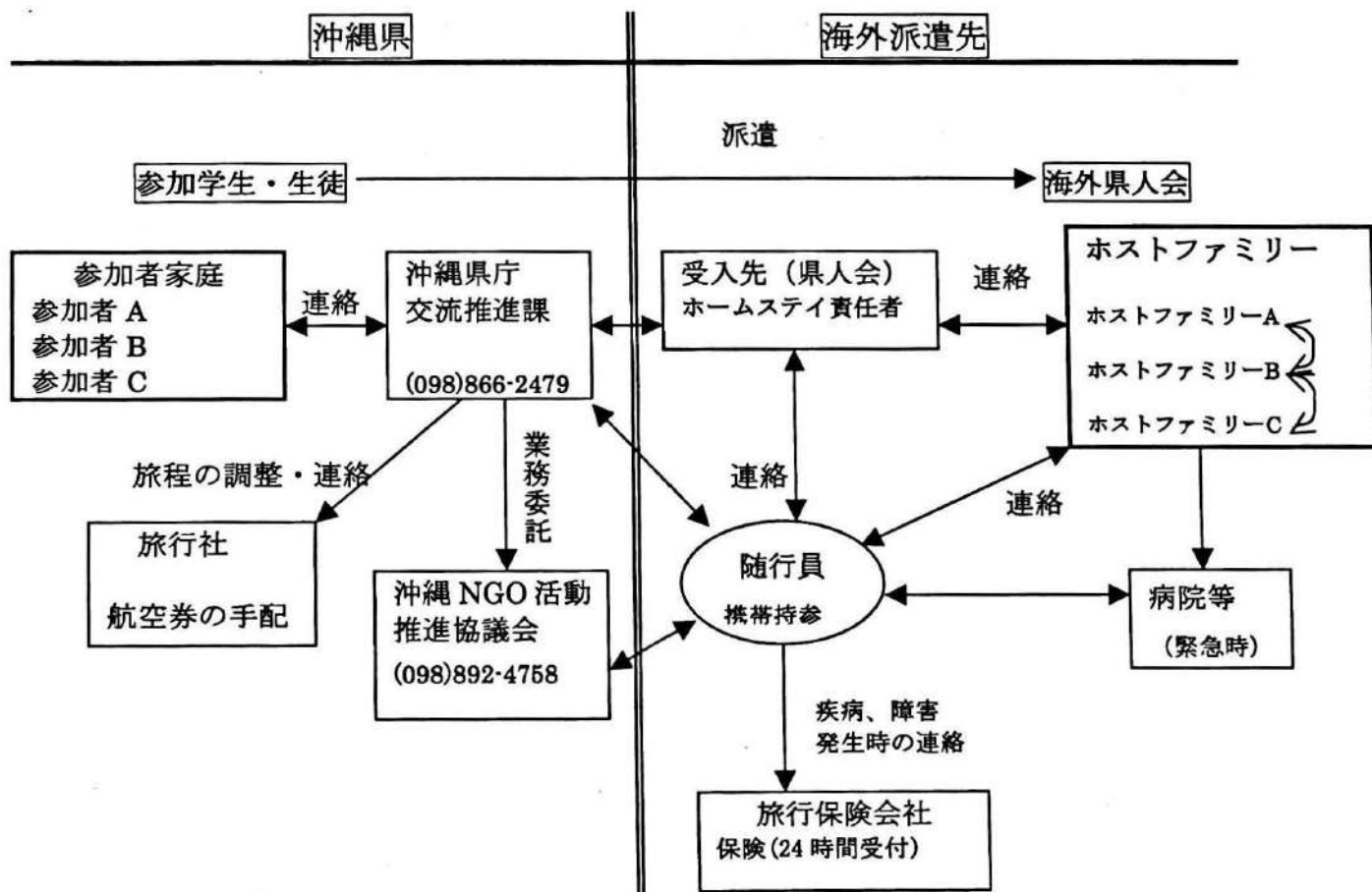
私は海外に行って、今の沖縄にはないものをたくさん持っているところにびっくりしました。今の沖縄には「ユイマール」という言葉の意味である助け合いがなくなってきているのに、沖縄じゃないところでこの言葉が使われ、実行されているところにびっくりしました。私は、ハワイに行くまで「ユイマール」という言葉を聞いたことがあるだけで、全く意味が分かりませんでした。ウチナーンチュである私がわからないのに、ハワイに住んでいるウチナーンチュの人たちは分かっていて、私は少し恥ずかしくなりました。

ウチナーンチュが住んでいる地域は様々だったと思います。みんながみんな、遠くに住んでいるわけではないと思いますが、近くに住んでいる人もいます。でも、その住んでいる地域に共通することは、普通の住宅街ということだと私は思います。

私はこのホームステイを通して、英語はもちろんのこと、海外に渡った人たちのこと、沖縄とハワイの共通点など様々なことを学ぶことができました。得たこともたくさんありました。将来の夢とまではいかないものの、将来の夢への計画を見つけることができました。将来の夢は決まっていなくても、高校に入ってから留学をするという目標をたてることができました。大人になって、海外に住むという夢もできました。ホームステイを通して得たこと、学んだことを忘れずこれからの将来に役立てていきたいと思いました。

5 実施体制

海外県人会ホームステイ派遣事業 実施体制 2007 年度



## 6. アンケート結果

### (1) 参加者 (派遣前)

**Q1. このホームステイプログラムであなたが最も期待していることはなんですか？**

(期待するものから( )に1~7の優先順位を書いてください)

- ( ) 海外でのホームステイ ( ) 海外県人会との交流 ( ) 語学力の向上  
( ) 海外経験 ( ) 将来の就職につながるきっかけ ( ) 外国の文化・歴史  
( ) その他(意見を書いてください):

【結果】海外経験や将来の就職につなげたいという人が多い。

**Q2. 海外県人会の家庭でのホームステイということで安心感や、良いイメージなど、思い描くことがあれば書いてください。**

【結果】「沖縄」という共通点があることによる安心感、親しみやすさ、ハワイの県系人とのつながりができること。

**Q3. 今感じている不安なことを素直に書いてください。**

【結果】

- ・ 自分の行きたい所、やりたいことができるか。
- ・ ホストファミリーと気が合うか、迷惑をかけないか、友達が作れるか。
- ・ 食事の量、味
- ・ 体調、体力
- ・ 語学面。通じない時どうすればいいか、自分の言いたいことがちゃんとと言えるか等

### (2) 参加者 (派遣後)

**Q1. 滞在中、海外のウチナーンチュの歴史や生活、ウチナーネットワークを学ぶことができましたか？(施設見学を通して・ホームステイを通して・県人会との交流を通して・他)**

【結果】ホストファミリーや県人会の人たちとの交流を通し、現地で沖縄の文化が根付いていることや、方言での会話を聞いたことで、概ね学ぶことができた。

**Q2. 派遣先の地域の方々との交流はできたか？**

(どのくらい)

【結果】概ねできた。

(どんなかたちで)



**【結果】**

- ・ 三線レッスンなどを通して。
- ・ ご飯食べたり、スポーツしたり。
- ・ 玉城と羽地村のクラブのピクニック
- ・ 日系ハワイアンの人々、白人、黒人たくさん触れることができた。観光地巡りやスーパーなどで。
- ・ ホストファミリーとミーティングに参加して。
- ・ サマーキャンプなどを通して
- ・ 歓迎・お別れパーティーで。

**Q3. 事前オリエンテーションは役に立ちましたか？**

(複数回答可。以下の□にチェック✓をお願いします)

- 語学研修 保護者説明会 沖縄を伝える学習 沖縄移民の歴史  
参加者同士のコミュニケーション 派遣地からの具体的な情報共有 その他

**【結果】**多い順に、参加者同士のコミュニケーション、沖縄を伝える学習、語学研修など。

**Q4. その他に事前に学んでいたほうがよかったと思うことはありますか**

**【結果】**

- ・ 小銭を余らせない買い物の仕方、硬貨の種類、現地情報（地理・文化・現地語・特徴など）
- ・ 空港での対応（荷物チェック、重量制限）
- ・ 英語をもっと学ぶべきだった。
- ・ その国にしかない特産物や歴史。

**Q5. 今回は全行程に県の随行員が付きましたが、随行員が付かない場合でも、グループで互いに協力することで、ホームステイツアーをこなすことは可能だと思いますか？**

**【結果】**可能という回答が多数だったが、海外経験がありリーダーシップの取れる大学生、語学が得意な人がいること、グループを作ってリーダーを決め、メンバーが協力して助け合うことができることなどが、条件である。

**Q6. その他感想、要望・意見などありましたら、書いて下さい。**

**【結果】**

<内容について>

- ・ もっと若い人、同じくらいの年齢の人との交流があればよかった。
- ・ ローカルの若者と一緒に学んだり、教えたりすることでいい刺激になると思います。

- ・ Hawaii の歴史についての City Tour はすごく勉強になると思いました！
- ・ 観光よりも、ホストファミリーと過ごす時間を多くとって欲しい。

<期間、時期について>

- ・ 9月に Okinawa Festival があるのでそれにあわせて期間をずらしてもいいと思う。
- ・ 日程はもっと長いほうがいいかと思います。

<全体を通して>

- ・ とても楽しくて、感動することがたくさんあった。
- ・ また参加したいと思いました。
- ・ 男女のバランスをできるだけ同じにしてほしいです。
- ・ チケットの手配が遅れたり、スケジュールの変更が多かった。
- ・ もっとたくさんの人と話したかった。

(3) ホストファミリーから

**1. 今回のこの事業に対する感想を記述して下さい(良かった点、改善すべき点、派遣生徒に対して要望したいこと、その他)。**

**【結果】**

<良かった点>

- ・ 派遣生徒と現地学生が交流できたのが良かった。
- ・ 生徒の作ったプレゼンテーション用ポスターには感激でした。
- ・ 沖縄からの参加者は、積極的で明るく礼儀正しく、好感が持てました。
- ・ 私達の行事や出会った人々、食べ物に対し、関心が高く熱心だった。
- ・ ホストファミリーが生徒の面倒を見きれない時に、グループでお互い助け合った。
- ・ 生徒同士仲良くなっていたこと。
- ・ 現地のコーディネーターが、ホストファミリーが全てに納得できるよう積極的に話し合いをしてくれた。

<改善すべき点>

- ・ ホストファミリーの選定にあたっては、参加者と同じ年代の家族がいる家庭を選んだ方がよい。
- ・ もう少し英語が話せたらよい。(英語のライティングは良い)
- ・ 沖縄県は、ツアーの目的、何をすべきかといったことを私達に示す必要がある。
- ・ 機内預け荷物制限の説明を事前に行ってほしい。

**2. 今回のホームステイの実施時期については、適当でしたか？**

**【結果】**

- ・ 現地学校に傍聴学生として参加するには夏休みに入る前(6月)が良いです。(適当、いつでも良いという意見もあり)。
- ・ 期間が短いように思えた。

**3. 今回のホームステイ派遣事業についての県と海外県人会との調整時期について、意見・要望。**

**【結果】**

- ・ 調整時期を早めにしてほしい。  
(実施日、派遣人数を知らせる時期：6ヶ月前～少なくとも3ヶ月前)
- ・ なるべく早く連絡してほしい。
- ・ 生徒の出身地や年齢、名前などがわかれば、ホストファミリーを見つけることも早くなる。

**4. 次年度以降は、生徒への随行者は付けず、現地空港到着から出発までの全行程を海外県人会メンバーに任せる予定としておりますが、ホームステイ事業の実施にあたり特に支障はありますか？**

**【結果】** 半数程度が、随行者をつけるべきという意見

- ・ 生徒の安全面に不安がある。1名の大人が監督者として全体をサポートする必要がある。
- ・ 15歳以上の生徒たちにはスーパーバイザーなしの方が責任感が出て本人の為になる様な気がします。スーパーバイザーに掛かる費用の分は受け入れ側の必要経費に上乗せしてほしい。参加者の人数にもよりますが、今回のように4人程度でしたら、空港への送迎等、とくに問題はないと思います。
- ・ 大人を同伴しない場合は、大学生(高学年)で責任を果たせる子をリーダーに、またもう1名をアシスタント(補佐)として選ぶのも良いのではないかと。航空会社にも生徒だけなので、お世話下さるようお願いするのも良いのではないかと。米国では子供2人の旅の時にそのようにしているみたいです。

**5. ホームステイ参加生徒の資質で大切な事は何ですか？以下の( )に1~7までの優先順位を書いて下さい。**

- ( ) 語学力、( ) 沖縄を伝える力、( ) 県人会メンバーとの交流を望むこと、  
( ) 積極的な態度、( ) 国際交流・海外に興味を持つこと、  
( ) ホームステイに興味があること、( ) その他(具体的に： )

**【結果】** 多い順に、「積極的な態度」、「国際交流・海外に興味を持つこと」、「ホームステイに興味があること」、「語学力」、「県人会メンバーとの交流を望むこと」などであった。

**6. 今回受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか？**

**【結果】**

- ・ 何でも食べてくれて嬉しかったです。

- ・ 生活、学習態度は非常に良かった。
- ・ 私達や出会った人と沖縄文化を分かち合った。
- ・ 全体的に生徒は礼儀正しかった。
- ・ 新たな経験に対し意欲的。快活で分別がわかる生徒だった。
- ・ あまり質問がなかった。パッケージにきたのかと思った。

## 7. その他県に対する要望等があれば、書いて下さい。

- ・ 次回はもっと余裕を持って実施してほしい。今回は短かった。
- ・ 沖縄の学校の同意がえられたら、子供達が3週間3箇所の土地を訪問し、アメリカ大陸の広大さを体験できればもっと素晴らしいと思います。
- ・ ホストファミリープログラムは、参加する生徒やホストファミリーにとっても有益なことです。
- ・ 私達は、ハワイの生徒を沖縄へ送るといふ、類似したプロジェクトに携わりたい。ハワイと沖縄社会とのつながりを作り、懸け橋となるより多くの機会を楽しみにしています。
- ・ 参加者が現代生活、職業に適合及び成功する助けとなる価値観、この変化し続ける社会で生き残るために必要な思考プロセスについて学べるよう支援したい。
- ・ 中高生など、一度も海外に行ったことのない生徒にチャンスを与えてほしい。
- ・ 生徒は大変興味深く関心を持っています。こちらで得た知識を沖縄に帰り、沖縄の生徒さんに伝えてほしい。
- ・ 次年度もホームステイプログラムがあれば、いくつかの点について当地到着前に生徒に知らせておくことを提案する。(航空機での手荷物の条件、洗濯物を願う際のマナー(夜遅くに出されたことに対し)、日本へ送る荷物の送料など)

世界のウチナンチュと交流しようと「海外県人会ホームステイ」に参加した。今年から始まった加する中学生から大学生

## 中学生ら、県人会と交流へ

県事業ホームステイ 米国出発



派遣される8人は、家族に見守られハワイ州へ出発した。30日午後、那覇市那覇空港

バンク推進事業で、国際理解と県人会のネットワークを担う若い人材を育てる。八月八日までの十日間ハワイ州オアフ島のハワイ沖縄連合会の会員宅に滞在。ハワイ沖縄センターを見学するほか、現地県人会と交流を深める。二十五日にはジョージア州アトランタに中学生三人が出発した。小学四年からブラを習っている宮城美沙さん(座間味中三年)は「ハワイの歴史、文化に興味があり、本場のフラを見たい。県人会の人とも仲良くなりたいです」と笑顔を見せた。同事業には、十人程度の定員に四十二人の応募があった。



## 中学生3人 米国へ出発

県の二〇〇七年度海外県人会ホームステイ派遣の出発式が二十五日、那

覇空港で開かれた。写真。滞在先の米国アトランタに向けて中学生三人が羽田空港へ出発した。ホームステイ派遣は、人材育成などを目的に県が本年度から行うホストファミリーバンク推進事業の一環。中学生と大学生四十二人の応募がありアトランタとハワイに十一人の派遣を決めた。出発式では宮城美沙さん(羽地中二年)が「楽しく過ごし、いい思い出にしたい」とあいさつした。

2007年7月25日 琉球新報 夕刊

# めんそーれ!! 沖縄の中学生

アメリカ

れたホストファミリーはラウエン グラシー金原恵子さん、ルイス高江洲佳代子さん、ワシントン宮里昌紀子さんの家族。

「ルイス高江洲佳代子通信 沖縄県が本年度から実施している「海外県人会ホームステイ派遣事業」で、沖縄から中学生三人がアトランタを訪れ、七月下旬から八月月上旬にかけて滞在。県系の家庭にホームステイしながら、現地の県系人らと交流した。訪問したのは比嘉蘭さん(曾根中三年)、粟田風花さん(読谷中二年)、宮城美沙さん(座間味中三年)の三人。沖縄県庁交流推進課の宮城直人さんが引率し、一行は七月二十五日から十日間の日程で滞在した。受け入り、空手海威などを披露した。

## 3人、県系人宅にステイ



米アトランタ在住の県系人らが開いたピクニックでは、多くの関係者が沖縄からの中学生らを歓迎した

また、アトランタの南のアラバマ市では南ジョージア沖縄会(キャンプ高良ヨシ子会長の歓迎会)にも参加。アトランタ市では水族館やコカ・コーラ館、CNN、オリピック記念公園、科学博物館、美術館を見学した。滞在日程をすべて終了するに当たって開かれたシェイムス仲村米子宅での送別会で、三人は「短期間の滞在でしたが、多くの体験をした。アトランタは良かった。ピクニックも楽しかった。もっと英会話を勉強したい」と感想を述べた。アトランタ県人会長のコール・マユミさんは「私は沖縄のジュニア・スタディー・ツアーに参加し、二日前にアトランタに戻ったばかり。沖縄と海外の子供たちの交流は大事だと思う。みんなもまた遊びに来てね」と一行を激励した。

2007年7月31日 沖縄タイムス 朝刊

2007年8月25日 沖縄タイムス 夕刊

# ホームステイを促進

## 県人会ネットワーク活用

### ホストファミリー バンク推進事業

世界に広がるウチナーンチュのネットワークを、県内中高生、大学生の人材育成に役立てようと「海外県人会ホームステイ派遣事業（ホストファミリーバンク推進事業）」を本年度から展開しています。

県は一〇六年十月に開催した第四回世界のウチナーンチュ大会で「ホストファミリーバンク構想」を提案。これは海外県人会などに協力してもらい、県内学生がホームステイ受け入れを促すものです。

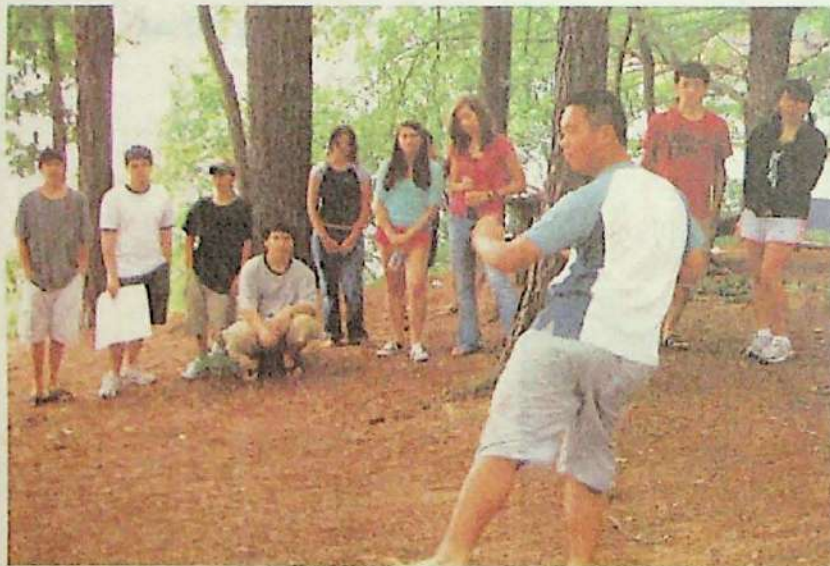
沖縄から派遣先までの移動費用は参加者が負担し、滞在費などはホストファミリーが負担します（本年度は一部を県が負担）。本年度の派遣先は米国アトランタ、ハワイの二地域。派遣期間は七月末から八月初旬にかけての八泊十日となります。

地元県人会による歓迎パーティーや、県内からの参加者が沖縄について紹介する発表会も開催しました。

参加者もあり、県人会の皆さんからは「沖縄の子どもたちと交流できて、とても嬉しい」などの声がありました。

事業の目的には参加者の国際感覚養成のほか、若い世代に世界のウチナーンチュとネットワークを築いてもらい、国際的な交流を発展させることも盛り込まれています。海外滞在を希望しても、言葉や文化の違いからなかなか行動に移せない面もありますが、受け入れ先が親系人の場合は、そのハードルが低くなるという利点もあります。

来年度以降は、海外県系子弟のホームステイを沖縄で受け入れる予定ですが、その際には県内及び世界の県人会からホームステイ受け入れ可能な家庭を募ってデータベース化し、「ホストファミリーバンク」を実現させ、沖縄と海外県系人の若者を双方で送り出すシステムの確立を目指します。



空手を習いし沖縄の文化をアピールする県内からの参加者（アトランタ）

2007年11月11日 琉球新報 朝刊 別冊「県政特集」

## 8. 編集後記

この事業は県として初の試みであったため、試行錯誤を繰り返しながら、実施しました。実施時期は夏休み期間である、7月下旬と決まっていたものの、取組の開始が遅れたことで短期間での準備を余儀なくされたことから、受け入れ先の決定、参加者の募集、事前研修、航空チケットの手配などで、関係者にはいろいろご迷惑をお掛けしたと思っています。

しかし、ホームステイ終了後には、受け入れてくれた両県人会より、沖縄の子供たちと現地で交流できて嬉しかったという声が寄せられ、また、参加した学生・生徒についても、充実感に満ちた顔で帰国し、海外を視野に入れた将来のビジョン、沖縄について学ぶ意欲や芸能等に取り組む意欲の向上など、意識に大きな変化をもたらしたという声を聞き、この事業の所期の目的は達成できたと、ホッとしました。

今回受け入れて下さいました、アトランタ県人会及びハワイ沖縄連合会の関係者の皆様には、大変お世話になりました。また、ホームステイに参加した学生・生徒は短期間でプレゼンテーションの準備をし、現地では英語で発表し、沖縄の芸能等を披露してくれ、本当によくやったと思います。この経験を将来に活かし、国際的に活躍する人材に成長することを期待しています。

小生もアトランタの全行程を参加者と共にし、また米国初上陸ということもあって、貴重な体験となりました。現地では、ウチナーンチュ関係者に出会えば、どこでも熱い歓迎を受けたことから、世界どこでもウチナーンチュのチムグクルというのは、生きているのだなと感じました。このウチナーネットワークの絆を広げ、将来にわたって継承していくことの大切さを改めて実感した次第です。

今回の経験を糧として、次回以降、効率的な事業実施ができるよう、事業のバージョンアップを図っていきたいと思います。最後に、この事業を受託者として担い、支えてくれた沖縄NGO活動推進協議会の関係者にも感謝申し上げます。(宮城直人)

この事業を沖縄県及び海外県人会の皆様とともに計画、実施する過程で、参加者のバイタリティーあふれる行動力、世界で活躍する沖縄人と交流したいという強い意志と、沖縄の子ども達を家族の一員として温かく受け入れ、ともに過ごす中で多くのことを教えて下さったホストファミリーの皆様とが互いに築きあげた絆は、私たちに多くの展望を与えてくれました。

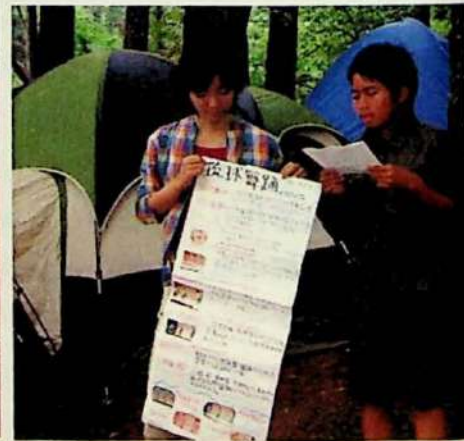
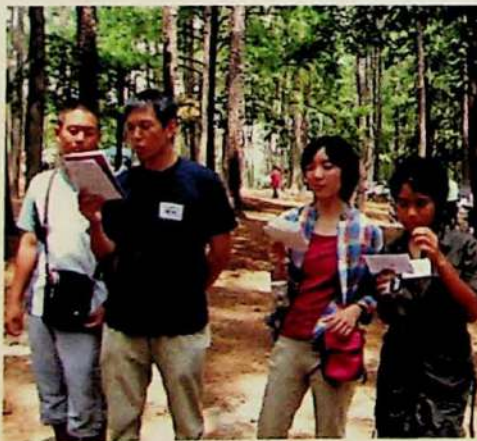
不慣れな点多々あったと思いますが、沖縄県交流推進課の皆様や海外県人会の皆様、そして参加者の方々に色々と助けて頂きました。短期間での事業実施ではありましたが、県との協働で事業を作り上げる喜びを実感しました。心より感謝申し上げます。

沖縄の移民の歴史に触れ、県系人の家庭にホームステイをしながらその地の生活や文化、コミュニケーションの難しさ・楽しさを体験し、生き生きと吸収していく参加者の様子と、海外と沖縄とのつながりが子ども達にどれだけ豊かな学びを与えることができるのか、報告書を通してお伝えすることができれば幸いです。参加者がこの経験、出会いを今後どのように活かしていくか、長いスパンで見守り、そして応援していきたいと思います。

また、沖縄NGO活動推進協議会はこれからも海外に住むウチナーンチュとのネットワークを深め、広げる活動に関わって行きたい所存です。本報告書に関して、忌憚のないご意見、ご質問をお待ちしています。(玉城直美、大城みのり)



那覇空港にて、出発式。大城課長の言葉を聞く緊張気味の3人。いよいよ出発です！



ジュニアサマーキャンプでのワンショット。  
沖縄の事を紹介しました。緊張したよ〜！！  
4人で英語で「涙そうそう」を歌いました♪

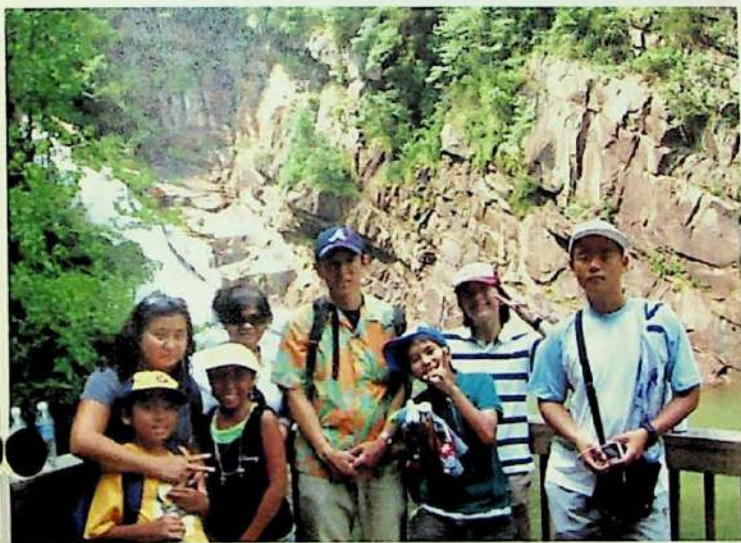




ワールド・オブ・コカコーラ  
5大陸の約60種類ものコカ・コーラ製品の試  
飲ができました。



ターナーフィールドスタジアムにて。アト  
ランタブレーブス VS ヒューストンアストロスを  
観戦。



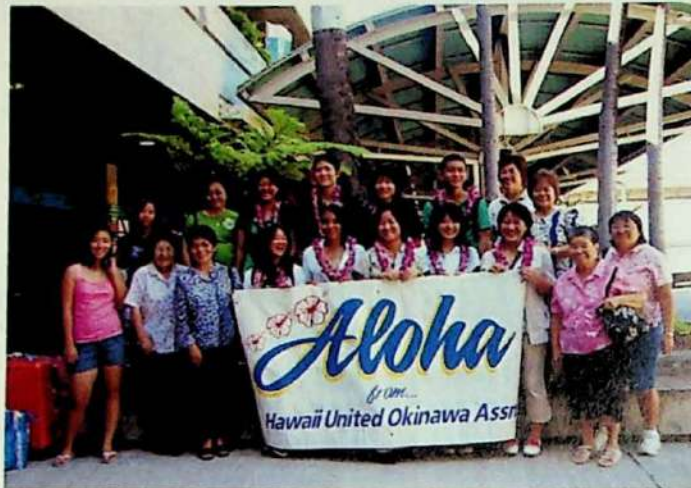
タルーラ峡谷にてハイキング  
緑豊かなジョージアの自然を、汗をかきかき体感



ポーク・レストランでのランチ  
この笑顔からどんなにおいしいのか想像できますね。  
一方離れてみて、ウチナームンの良さもわかりました。



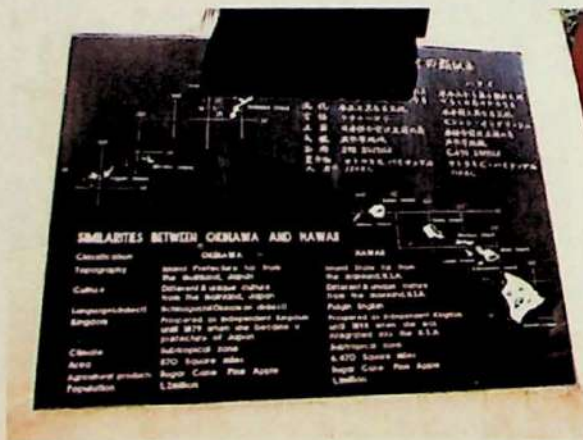
アトランタ日本総領事館訪問  
小川総領事と懇談しましたが、緊張して…



ホノリル到着直後、ホストファミリーと。まだまだみんな色白！



ハワイ沖縄センター敷地内では、沖縄移民の歴史、沖縄とハワイのつながりについて随所で触れることができる。右はセンター内の資料室。滞在期間中の集合場所として、参加者の憩いの場となりました。本棚には様々な移民の資料が並んでいました。

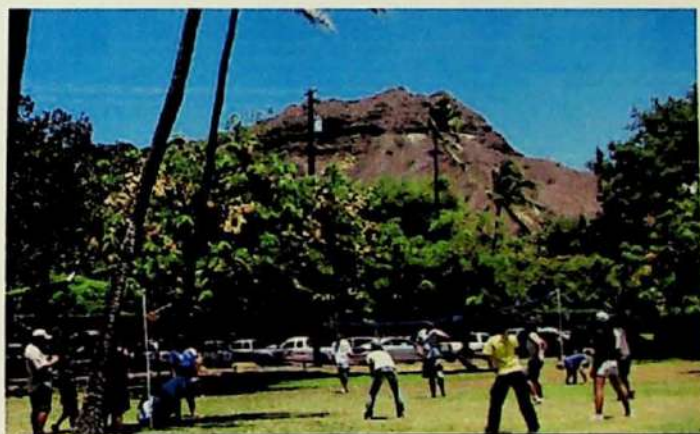


「沖縄とハワイの類似点」が記された碑と、「一世ガ一テン」の説明の碑。



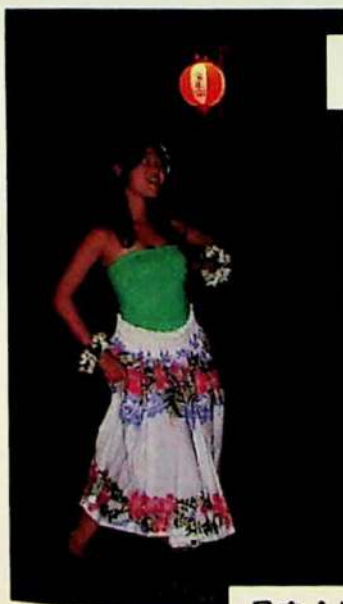
三線の練習に参加。初めて三線に触れる参加者も。  
歌や踊り、三線。レベル別のグループに分かれて、熱心に練習していました。

誰がミスハワイか分かりますか？



沖縄のフラ嬢、素敵でした！

ピクニックの風景。バックはダイヤモンドヘッド



最も心に残ったアロハパーティー。沖縄の事を一生懸命発表するメンバーと、それを見守るホストファミリー(右)。どちらもドキドキ。